資料1

他WG共有及び第一回マネジメントWGの振り返り

日本版NCAA創設に向けた学産官連携協議会
第二回マネジメントWG

2017年11月20日（月）09時～12時

資料1

安全安心WG（第二回）の共有

資料1

第二回安全安心WG（2017/11/6開催）振り返り① ~ワークセッションでの意見~

【テーマ】 日本版NCAAにおける安全安心基準設定に関する基本方針

■ **命にかかわると考えられる医療分野**

- ✓ 心臓（心臓疾患）
- ✓ 脳（脳震盪）
- ✓ 頸椎損傷・背骨

なお、上記以外にも、永久障害となるもの（生活に影響を与えるような後遺症をもたらす大事故）も検討すべき事項との意見があった。

■ **直ぐにでも整備をすすめなければならない分野・領域**

- ✓ 健康診断の受診と結果の共有／事前の全身メディカルチェック（MRIや血液検査等）
- ✓ AEDの設置、AEDの使用方法に関する研修や体験会の実施
- ✓ 医療機関と大学との連携（スキーム作り）
- ✓ 怪我をしないプレーの指導方法に関する競技横断的な知識の普及・共有
- ✓ 競技横断的な防具の開発・普及

■ **中長期的に必要とされる分野・領域**

- ✓ ガイドラインやハンドブック等を通じた共通のルール作り
- ✓ 事故に関する統計データ（※）の整備、分析
- ✓ 指導者を指導する仕組みの構築（指導者のライセンスの検討も含む）
- ✓ 競技場、体育館等の施設の整備

（※）統計データに関する意見

- ・死亡事故だけでなく、重篤な事例についても情報を収集する必要がある。
- ・単にデータを集めるだけではなく、分析して、対策につなげる必要があるため、どういった時に、どういった場所・タイミングで発生しているのかの情報も必要である。
- ・様々な情報（例えば、災害給付情報）を1つに集約した高度な情報提供が予防につながる。
- ・指導者等が閲覧できる場所を作ってあげることも重要であり、指導者等はどこに情報があるかを知っていることが重要となる。

資料1

第二回安全安心WG（2017/11/6開催）振り返り② ~ワークセッションでの意見~

【テーマ】 日本版NCAAにおける安全安心基準設定に関する基本方針

■ **日本版NCAAに期待する機能**

- ✓ ドクターやトレーナーの配置に関する助言機能
- ✓ 危険防止策として、最先端の事例に関する情報収集機能
- ✓ 事故に関するデータ収集機能
- ✓ 最先端事例や事故データに基づいたガイドラインやハンドブック等の編纂機能
- ✓ 現場で合理的な判断ができるようにするための環境整備機能
  （例えば、熱中症予防では、WBGTの数値に基づいて運動を禁止・制限するといったことを合理的に出来るようにする。）

■ **今後の課題**

- ✓ 安全安心の取り組みを推進するためには、強制的にやらせないと動かない面がある。そのためにも、権利と責任の関係を整理する必要がある。
- ✓ 競技ごとに特性があるため、「競技横断的に必要となるもの（共通）」と「競技特有のもの（個別）」に区分して、安全安心の設計をする必要があること
- ✓ 重大事故につながるヒヤリハットに関する情報も重要であるが、情報が乏しいこと
- ✓ 健康診断の結果の共有については、個人情報保護の観点から整理が必要となること
- ✓ 統計上の集計において、部活動と学生生活を切り離しにくい部分があり、いつが部活中の事故なのか、学生生活中の事故なのかの区分が難しい面があること
- ✓ 任意団体であるサークル等を含めるかどうかを考える必要があること

■ **第三回に予定されているテーマ（事後の対処）に関連する意見**

- ✓ 事故が起こった場合どのように対応するかについては、殆どの大学では部活の顧問に任せており、対応方法も明確にされていない場合が多いため、ガイドラインは作った方が良い。
- ✓ スポーツ安全保険や学生教育研究災害障害保険等の保険は強制的に入れる仕組みが必要である。

資料1

学業充実WG（第二回）の共有

資料1

第二回学業充実WG（2017/11/13開催）振り返り① ~ワークセッションでの意見~

【テーマ】 在学時で必要と思われる対策とは何か

■ **試合開催日程の調整等による学修機会の確保について**

➢ **議論の概要**

✓ 試合の開催日程の調整は、競技横断的に施設の管理を実施し、大学の授業等と調整した上で開催可能であれば非常に有益である。

✓ 現状では、土日を中心に試合が組まれているため施設の確保などが困難であるが、授業を避けた平日の夜に実施する事で授業を終えた一般学生の応援等も得やすくなる。また、土日の試合を割けることでプロチームの試合観戦などへ学生が足を運びやすくなるのでスポーツ業界全体に良い循環が生まれると考える。

✓ 日程調整で対応しきれない範囲をEラーニング・学修チューター等で補う仕組みの整備が必要であると考える。

➢ **今後議論が必要な項目（案）**

✓ 現状の競技の試合数の見直し
試合が多いために施設の逼迫や学習機会損失がなされている可能性もあるので、学生のモチベーションを奪わない範囲で、試合数の見直しが必要ではないか。

✓ 試合形式の見直しと施設の整備
学生がより多く応援に行き、かつ日程の調整の容易さを考慮した場合、各大学に競技基準に見合い観客席も設置された施設があるべきではないか。また、トーナメント戦以外はHome＆Away形式にする等が必要ではないか。現状では各大学の施設の設備面等にも課題があるため将来的に対応すべき項目と考える。

✓ Eラーニングの単位化手続き
Eラーニングは手段としては有効ではあるが、受講して単位を得るには達成項目や要件が設置されている。また、そもそも大学が当該受講を単位認定しないといけないため、今後、日本版NCAAが共通プラットフォームでEラーニングを配信するためには大学との調整が必須である。

資料1

第二回学業充実WG（2017/11/13開催）振り返り② ~ワークセッションでの意見~

【テーマ】 在学時で必要と思われる対策とは何か

■ **監督・コーチ等指導者の資質・能力向上について**

➢ **議論の概要**

✓ 指導者の資質・能力の向上にはライセンス制度等を用いて競技指導能力に加え、人間形成能力や学修機会への理解等を規定する事が望ましいのではないか。

✓ ライセンスを発行し、モニタリングを実施していくことが日本版NCAAの重要な役割になると考えられる。その際、各大学が資格取得実施者を把握・雇用等することが肝要であり、各大学で体育局等の設置が望ましいのではないか。

➢ **今後議論が必要な項目（案）**

✓ 実施可能な項目からの着手
ライセンス制度や体育局の設置についてはすぐに実行可能とは限らないため、開始当初は、指導者向けセミナーの開催・ハンドブックの整備や、体育局設置の推奨・支援から義務などという段階を踏むべきではないか。

✓ 雇用創出のための原資の確保
指導者へライセンスを義務付けるための動機づけには指導者の賃金問題や雇用の問題の解決も必要ではないか。その際、日本版NCAA自体の活動資金以外に各大学で雇用を創出するための原資も必要になるのではないか。

■ **成績管理と成績不振者への対策の実施について**

➢ **議論の概要**

✓ 管理すべき成績は、日本の現状を考慮し、質（GPA）ではなく、卒業に必要な単位数を年間で管理していくことが重要ではないか。

✓ 日本版NCAAは成績の基準を示し、各大学は遵守するための管理機能を体育局設置などで整備すべきではないか。また、各大学が日本版NCAAに成績の状況を提示する事も義務付けないと成立しないと考える。成績不振者への対応はどのように強制力を日本版NCAAが持つことができるかを考える必要がある。

➢ **今後議論が必要な項目（案）**

✓ 中長期的な動機づけ
大学在籍期間だけでなく、中学・高校の段階で学業とスポーツを両立させていく理念を浸透させていく必要があるのではないか。

✓ 成績不振者への対応
どのように強制力を持たせるかに加え、試合への不参加・練習時間の制限、大学での補講などをさらに具体化すべきではないか。

資料1

第二回学業充実WG（2017/11/13開催）振り返り③ ~ワークセッションでの意見~

【テーマ】 在学時で必要と思われる対策とは何か

■ **練習時間の制限について**

➢ **議論の概要**

✓ 指導者の資質・能力の向上が必須であり、授業と練習が重ならない工夫や意識を醸成する事が重要である。

✓ 一方的に時間制限をするのは学生の動機づけにならないため、成績不振者への対応に限るなど一種の制約とする方が望ましいのではないか。もし時間制限を設ける場合には、米国NCAAは過剰な練習への対策と自宅学習を含めた学修時間の確保のために練習時間の制限を設けているが日本版の制限根拠を示す必要があるのではないか。

➢ **今後議論が必要な項目（案）**

✓ 制限時間の根拠の調査
大学で単位を取得するために必要な学習時間、練習時間の実態を考慮した上で時間を算出すべきなので実態調査が必要ではないか。

■ **日本版NCAAの求められる役割と各大学での実施項目について**

➢ **議論の概要**

✓ 全体として、日本版NCAAの役割は基準や目安を策定しモニタリングを実施する事ではないかと考える。その上で、各大学機関が成績・練習時間などを管理徹底し具体化していくことが求められるのではないか。

✓ 上記管理を実行する上で、大学側への強制力・メリットの訴求をNCAAがすべきであり、大学側は管理するための組織整備が必要ではないか。

✓ 他に、学連・NF・OBOG会への理解醸成も今後は必要であると考えられ、日本版NCAA創世記については、既存の知見やノウハウをどう活用していくかが重要ではないか。

資料1

マネジメントWG（第一回）の振り返り

資料1

第一回マネジメントWG（2017/10/23開催）振り返り① ~ワークセッションでの意見~

【テーマ】 日本版NCAAを自立的な組織とするために各主体が果たすべき役割

■ **日本版NCAAの想定課題**

- ✓ 日本の大学スポーツはピラミッド構造となっており、上手くいっているところと上手くいっていないところ、その中間がある。それぞれのポジションにある大学に対して日本版NCAAがどういうメリットを出せるのかという議論が必要
- ✓ 会計面において、大学の運動部活動がアカウンタビリティを果たせるよう、日本版NCAAで報告用のひな型を整備できると良い
- ✓ 「国際競技力の向上」という観点で大学スポーツにどういう役割を求めていくかという大きなテーマがある。統括団体としての日本版NCAAが広く薄く様々な支援をしてくことは学生にとっては良いことでもある反面、（トップアスリートへの重点的な支援が薄まることで）国際レベルの学生の輩出を弱めてしまうことにならないかという懸念がある

■ **日本版NCAAを活用した大学の価値向上**

- ✓ 日本版NCAAがプラットフォームとして、大学生としてのあるべき姿を色々な形で共有し、横展開する機能を提供することで、日本の大学でアスリートをやることの価値を向上させていくことができる
- ✓ 大学にアリーナ・スタジアムを作り、そこに学生が集まり、応援できるような場になれば、学生のためにもなるし、大学のブランド力の向上にも繋がる。作るには当然お金がかかるが、資金面も含め日本版NCAAが支援することはできないか
- ✓ 地域や地域活性化等のブランディング。大学スポーツを上手く地域活性にも絡めていくような形を考えていくとよい

資料1

第一回マネジメントWG（2017/10/23開催）振り返り② ~ワークセッションでの意見~

【テーマ】 日本版NCAAを自立的な組織とするために各主体が果たすべき役割

■ **日本版NCAAがあるべき役割・機能を果たしながら、自立的運営を行っていくための活動資金の獲得手段**

- ✓ 学生アスリートをまとめ一定規模の会員データとなればそれを使ったビジネス展開を望む企業が出てくる。組織化したら大きな武器となると思うが、どこまでできるのかという体系を整理する必要がある
- ✓ アスリートに関する様々なデータを集めることで、その属性に応じた怪我の予防・治療法やトレーニング方法などが生まれてくる。トレーニング機器やヘルスケア部門の開発、食品・サプリの効果・効能を調べるなど色々な発展可能性がある。但し、個人情報について、どういった形で同意をとり、研究計画を作り、知財などをどう取り扱っていくかという制度設計をしっかり行うことが必須
- ✓ 加盟大学の学生アスリートを使った研究などの調査を共同で行うようなスポンサーシップの取り方も考えられる

■ **大学とOB・OGとのハブとしての可能性**

- ✓ 現在の日本の大学スポーツは、大学とOB・OGとの関係性のポテンシャルが十分に活かされていない。卒業後に関係性が維持できず、自分の母校が今何をやっているかを知らないケースが多い。関係性を繋ぐパイプやメディアがあれば、母校愛を喚起することができ、OB・OGからの応援したいという流れが起きてくることが期待される。大学スポーツをきっかけにOB・OGからの物理的な寄付や有能なOB・OGのビジネスパーソンからのナレッジによる支援を得られる可能性もあるのではないか